

香登英病關、雲々の三種を賣出した。元祿七年八月廿六日歿、享年五十。

**カメダカツヨシ** 龜田勝善 宮竹屋本家の

七代、片町の藥店である。伊右衛門勝延の養嗣子で、分家九右衛門金方の子であつた。幼名喜十郎、後伊右衛門。諱は勝善、又は章。字は純藏。鶴山・鹿心齋・田善・蘭泉等の號がある。最も詩を好み、野村圓平・横山政孝等と徵逐し、大鐘詩佛を迎へて離黄を請ひ、文政十一年京に出で、頼山陽に師事した。天保五年九月廿四日歿、享年六十七。その詩稿に鹿心齋遺稿がある。

**カメダガハ** 龜田川 鹿野郡八田の山中雨乞澤に發し、西流して國分に至り江曾川に合し、江曾川は御祓川に入る。一名を捨越川といふ。

**カメタキ** 龜瀧 白山連峰中別山の城内で、岩屋俣川の支流、尻滑谷と稱する所にある。七段をなし、高さ約六〇米。

**カメダキ** 龜田記 河北郡森下の昌長龜田氏の家録で、その祖龜田小三郎岳信以來のことが記されて居る。

**カメダコハル** 龜田小春 金澤の俳人、所居を白鷺齋といふた。通稱伊右衛門、後市兵衛。諱は勝豊。宮竹屋本家の四代。兄伊右衛門勝則の嗣子として藥店を業とした。元祿二年芭蕉の來遊した時その家に宿したことがある。元文五年二月四日歿、享年七十四、西齋寺に葬る。

**カメダゴンベエ** 龜田權兵衛 父は大隅高綱。權兵衛、高綱の後を襲いで淺野長晟に仕へたが、後前田利常から一萬俵を受けた。性極めて蓄財を好み、寛永十七年七月賊の侵入す

る所となつて殺された。

**カメダサタカツ** 龜田貞勝 通稱九十郎・伊右衛門。諱は貞勝又は敦。字は子復。西齋・四未能軒・是庵・復堂と號した。金澤の藥種商

で、宮竹屋本家の九代、祖父鶴山及び父桂葉と共に文雅を好み、錢立齋・林菴に詩を學んだ。後町年寄となり、明治十六年四月廿八日歿、享年六十六。西齋家業一名耕寛釣寂集を遺した。

**カメダジュンゾウ** 龜田純藏 ↓カメダカツヨシ 龜田勝善。

**カメダタカツナ** 龜田高綱 通稱半之丞・權兵衛大隅。柴田勝家の臣龜田(もと溝口氏)宗俊の子。賤の役に柴田伊賀守勝豊に屬して戦功があつた。高綱後に淺野幸長に仕へて朝鮮に出征し、又大坂兩度の役に従ひ、次いで前田利常に仕へて祿一萬俵を受け、入道して哲齋と稱した。龜田記に宗俊を鐵齋としたのは誤であらう。後に哲齋は又前田氏を辭して淺野長晟の聘に應じた。

**カメダタカノブ** 龜田岳信 初名小三郎、後大隅。河北郡森下の豪族で、一向一揆の首領であつた。天正四年一揆等が下間刑部卿法眼に致した訴狀に小三郎岳信の名が見える。金澤御坊陥落の後、同九年加賀の國中尙柴田勝家の命に服せざるもの唯岳信あるのみであつたから、勝家は之と和せんと謀り、先に若林長門・鈴木出羽等が皆誘殺せられたるを以て、岳信が之を肯せざるに拘らず、上村六左衛門を遣つて説服せしめた。岳信乃ち質を得んことを求め、勝家は溝口千熊を送つたので、岳信は北庄に至つて勝家に謁したが、その座作進退他日の用に供すべきを知つて赦し歸ら

しめ、岳信亦その子三郎を尾山城の佐久間盛政に遣はして赤心を明らかにした。三郎は後に準人と稱して前田利家に仕へた。以上は龜田記の叙述に據る。

**カメダトシツナ** 龜田俊綱 通稱又太郎・權之助。兄高綱が前田氏を辭して淺野長晟の聘に應ずるや、利常は俊綱を殺して二千石を與へたが、子なくして家斷絶した。然るにその死後八月にして男左夫四郎生まれ、長じて森下の昌長となり、子孫相繼いで河北郡に於ける土民の貞壁であつた。

**カメダハヤト** 龜田軍人 幼名三郎。父は龜田小三郎岳信。河北郡森下に住する一向一揆の徒であつたが、後に前田利家に仕へた。

**カメダハラ** 龜田原 鳳至郡當目の内の小字。

**カメダムネトシ** 龜田宗俊 ↓ミゾグチセシクマ 溝口千熊。

**カメツカ** 龜塚 鹿島郡小田中の親王塚と相對して存する古墳である。越登賀三州志來因概覽に、『往還を挟み、親王塚の向に龜山と呼ぶ龜狀の山あり。其高さ四間許。其頂長きこと九間許。幅四間半許。頭より尾まで長きこと三十間許。甲の廣さ二十四間許。首の幅五間半許。長きこと十三間許。山總廻百十間許。』とある。

**カメノヲノキ** 龜ノ尾の記 金澤に於ける町名の由來、神社佛閣の來歴、藩士中高祿のものゝ系譜家傳等を記し、傍ら近接村落の舊蹟等をも記す。未完成のものであるから、所に不備の點があり、卷末すら『猶下條に記す』となつてゐて、まだ書き續ける豫定であつたことが窺はれる。序跋もなく、編者の名もないが、栗野英啓の著述である。

**ガメブチマチ** 龜淵町 金澤植屋町の町疇まで地子地であつた。名稱の由來は、淺野川洪水の節淵になつたことがあり、それを龜淵といふたからだといふ。

**カメヤシコウ** 龜屋子阜 通稱を吉兵衛といひ、能美郡小松の人である。鹽問屋役を勤めたが、年四十五歳にして家業を嗣子に譲り、名を三内と更め、大坂に遊んで書を龜田窮樂に學んだ。又俳諧を良くし、八古關子阜と號し、八十古集、梅の志都久、龜の古々路等の著がある。享保六年八十二歳で歿。

**カメヤマ** 瓶山 江沼郡大聖寺を東に去ること十四軒、善提の嶺にある。花山法皇の陵であるとの俗傳がある。

**カメヤマシヨウ** 龜山城 北陸七國志に天正八年柴田勝家が加賀の一揆の據る城を擧げて安宅・小松・松任・槍屋・那谷・篠谷・倉橋・般若・鳥越・龜山・小原とある。この龜山の地は明らかでない。一説に、これは隣王山の麓をいふので、山中に龜嶽一名龜山又は龜岩といふ地があり、その下は小原村であるとして居る。

**カメヤマテンジンシヤ** 龜山天神社 鹿島郡三引の赤藏山の麓なる岡の上にあつて、長氏の建立した所である。

**カメヤマツカ** 龜山塚 鳳至郡三田(今山田)にある。能登名跡志に『同村に妙龜山太盛院とて禪宗あり。昔龜山院の御宇官女此所に流浪ありしを葬りして、その塚龜山といふにあり。龜形の山也。色々の物語あり。』とあるが、龜山院云々は固より附會に過ぎぬ。

**カメノミヤ** 加女呂の宮 江沼郡富塚から五〇〇米許り東にある。社殿なく、森あ

カメ